

繪本烈戰功記  
後篇  
四

2257  
16



門へ遠 13  
番 2257  
巻 16



繪本列戦功記後篇卷之四

目録

武田信玄軍勢手賦之事

信玄陣布北条勢於退圖

三増峠合戦之事

浅利信音打死之事并馬場内藤謎之事

北条氏忠武勇之圖

北条勢敗北之事

武田之勇士北条勢破圖

武田之勇士北条勢破圖



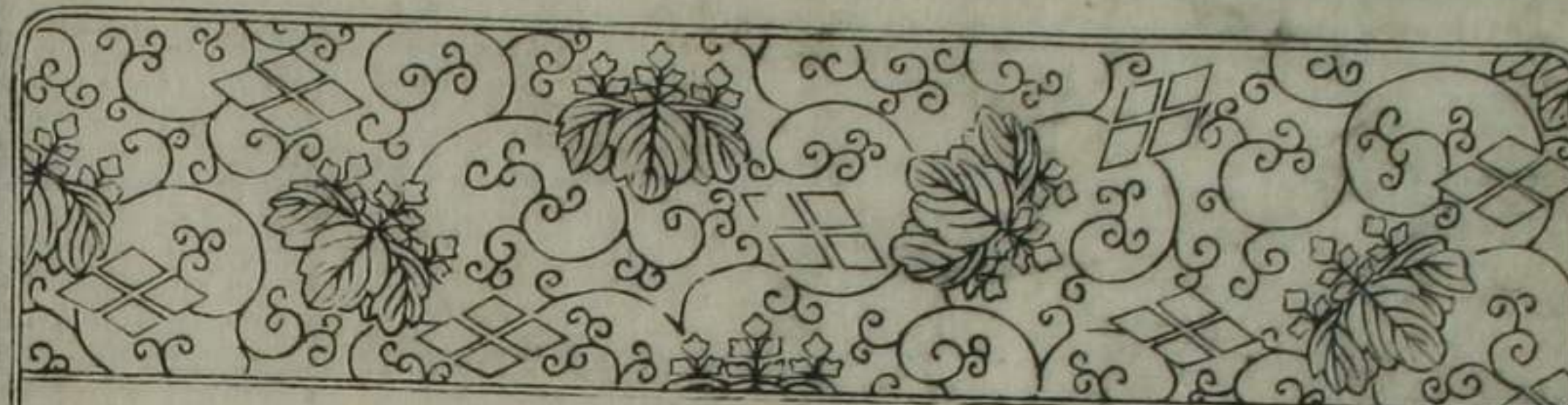
繪本烈戰功記後編卷之四

武田信玄軍勢を賦之事

斯而武田晴佐入江佐玄ハ。小田原勢と追返。悠々として  
 鞠子川とお返。小徐後の磯佐ハ。大磯平塚ハ。橋とお返。念子  
 ハ。入江にて。三塔の方へ推好。室あて。替入ると。小条方の生捕  
 の者とは。出と。是より先。二。遮居敷の。平。付。磨。と。あ。られ。る  
 二。子。生。捕。の。中。に。松。屋。金。左。夫。と。云。者。中。け。り。ハ。氏。安。が。二。四  
 小条。陸。奥。守。氏。照。舍。弟。阿。波。守。氏。邦。同。左。傍。の。左。氏。持。と  
 始。と。田。入。江。安。礫。森。富。永。四。良。左。傍。の。左。城。北。人。遠。山。荒  
 川。等。二。万。餘。騎。あ。て。二。塔。作。と。取。切。有。存。と。妻。と。告  
 ぐ。佐。玄。是。と。ゆ。朝。安。と。曰。氏。安。又。子。小。田。原。の。居。城。と

三増合戦評註

同圖



操

初而信玄陣と將異小列。騎射馳突の柱軍と配重。後  
 波の後の山は兼て擁護と翻。款勢進束と。取圍で  
 付取とんと。強威とつて。待々けり。初車不  
 又。小田原より進強一軍勢共。信玄と付取と。相又  
 拍で馳着。湖の涌がどく。小島り束り。争國。来武田  
 勢。堅攻と強。そと不。小柱突を倣て。以。悉死地。又人  
 と操。うらとて。中条勢棄。又お道。一。隈小。か。擧と  
 ち。うん。と怖て。皆我。去。跡。去。り。作。急。又。て。取。返。さ  
 ん。と。す。ふ。仍。より。進。く。砂。烟。と。持。て。強。守。る。味。方。の。諸。軍。小  
 住。合。て。進。退。交。せ。り。右。住。友。往。又。立。強。ぐ。は。彼。傍。の  
 湖。際。又。激。ち。う。小。突。ち。を。べ。これ。も。協。救。と。踏。上。り。

操

忠臣の日記

X 敵

師

ち。て。ぶ。ふ。信。玄。小。敵。一。が。了。只。恐。怖。而。一。向。新。小。中。り  
 居。る。者。と。怖。て。况。孤。氏。安。が。將。等。と。大。將。に。て。弱。く。の  
 城。主。共。の。逃。う。る。小。強。と。半。二。番。の。お。り。何。十。万。騎。お  
 も。せ。上。帥。あ。の。早。信。玄。が。勝。う。ら。ど。後。松。田。の。軍。勢  
 成。進。返。う。ら。が。た。程。懲。ら。し。て。暮。來。る。者。ど。も。の。ゆ。え  
 け。ま。ば。予。一。波。と。布。て。純。兵。の。膽。と。挫。れ。ん。ず。そ。う。す  
 小。荷。強。と。先。く。進。め。ば。と。有。て。小。荷。強。を。り。耳。利。た。ら。尉  
 と。召。さ。し。小。荷。強。の。勲。軍。北。行。勇。と。と。る。物。う。れ。は。深。方。の。諸。將  
 に。加。ま。り。先。へ。お。ち。た。た。の。方。乃。徑。路。よ。う。往。還。と。通。而。全。田  
 才。で。急。で。推。傍。小。は。と。令。ぞ。ま。り。れ。ば。耳。利。在。度。先。と。承  
 ね。ち。小。歩。率。小。折。探。而。救。の。病。と。進。せ。作。諸。軍。の。先。お。ち。た。る

及單正言二成卷之四

三

惣 控

共根横にりと乗出して。忽ち押出河の先候と云はし  
こと。武田勢ありけり。中津川と申候。木下山  
勢と申候。今ハ佐吉切妻小助と結て追崩さんと魚鱗  
候とぞ惣し。佐吉切妻小助と眺然もあらん。騎兵ども  
はまほお小惣と一命と共んらり。追束つる所詮ゆら  
予凱歌とらと見あせよと。歩兵は。續て諸軍小令し  
候とぞ惣し。ゆらゆらと推ゆら。又武田方の小助  
と守ら。耳利左衛門尉ハ。味方小先達。敵の荷つて追  
まらせり。早も二田妻田色小着。はらとと替体ハ  
味方の諸軍と結居ら。けり。中津川。陸奥守氏照  
の良堂。彼樂越前守又る。二十騎とらり。ゆら候と

物ら。今田の後の山と申して。武田方の推束と心算ハ  
居ら。耳利左衛門尉と眺。あはち散せと申候と  
ハ。木下山。後守加賀守。田中修路也。水原四郎左衛門尉  
有本孫三左衛門。井上文左衛門。本内六郎左衛門。常侍  
我方とと乗出。牛窪坂へ馳上り。けり。猛勢小助  
して。かまはじとやあひらん。彼小先達。一命と共んらり。追束つる所詮ゆら  
引退と。耳利勢逃とと敵と揚て追束つる所詮ゆら  
引返ら。けり。佐吉切妻小助と結て追崩さんと魚鱗  
候とぞ惣し。佐吉切妻小助と眺然もあらん。騎兵ども  
はまほお小惣と一命と共んらり。追束つる所詮ゆら  
予凱歌とらと見あせよと。歩兵は。續て諸軍小令し  
候とぞ惣し。ゆらゆらと推ゆら。又武田方の小助  
と守ら。耳利左衛門尉ハ。味方小先達。敵の荷つて追  
まらせり。早も二田妻田色小着。はらとと替体ハ  
味方の諸軍と結居ら。けり。中津川。陸奥守氏照  
の良堂。彼樂越前守又る。二十騎とらり。ゆら候と

元

川内力已二編卷之四



信玄陣  
 布て北条  
 勢  
 退る  
 圖

五



河内攻討二編卷之四

四

教 あり

秋ハ。秋又大切の彼すれば。は信玄が勤うくは程のり  
 あり。る場英清さハ。小勢あく後ひたれば。云分  
 然バ。秋より外又。は信玄の小勢秋にせし者ま。そ上  
 推通る。及筋ふ。丁ごり去て。築井の城あり。はま  
 秋方の内。及大和さ。が籠り居由。先亦大。到者  
 是ハ。素り。明日ハ。後殿よりハ。小勢結を。そ  
 大彼する。ぞと。命され。は。内。及。胃。冬。秋。由。清。道  
 中。ハ。信。玄。後。小。後。尾。張。守。信。定。と。召。ま。て。休。務。を  
 二百騎を引。沿。といふ。所。より。兩。築。井。の。城。の。押。と。て  
 馳。向。ひ。志。田。河。の。上。の。志。と。が。岨。に。は。い。は。し。押。通。る。べ  
 と。ぞ。命。ず。る。そ。外。山。縣。三。石。去。清。尉。胃。系。と。長。蛇。の

川内切記

六

は

まて。是よりハ。休。耳。利。又。代。て。小。勢。秋。を。引。と。勤。べ  
 命。せ。ら。ま。ら。れ。バ。内。及。胃。冬。畏。て。中。さ。ら。る。胃。冬。者。も  
 上。江。兼。持。の。城。代。と。取。し。よ。う。は。は。東。筋。の。内。と。言。ふ  
 進。時。先。づ。ら。退。時。殿。と。承。る。の。内。定。み。く。兼。て。上。と。言。ふ  
 畏。ず。り。ら。ら。ん。知。秋。俄。又。小。勢。秋。を。引。と。作。付。ら。る  
 如。何。さ。る。者。あ。ら。く。い。秋。と。何。ら。ま。ら。信。玄。が。勤。て。作。付  
 中。う。い。先。年。と。取。係。信。十一。系。三。千。の。軍。兵。と。後  
 小。田。系。の。四。門。是。地。ま。で。攻。入。し。か。ど。も。遂。小。放。置。せ  
 ち。小。勢。秋。と。切。崩。され。し。る。不。依。て。あり。小。田。系。方。小  
 も。子。付。小。勢。秋。と。奪。ひ。し。り。たり。不。味。履。て。は。秋。も。亦  
 小。勢。秋。と。崩。し。ん。と。巧。み。あ。ら。る。故。ハ。明日。の。小。勢

川内切記

五

中備守

改く。托軍九段と引連小懐が跡と押通り。背地  
 川の仕方。二呂根と赤て出。二呂根より下はへ馳下り  
 長蛇の首尾と合せ。敵の後又起り。一町又切崩す  
 と命せしむる。は托軍九段の隊の如く。竹田源太  
 なる射。小懐は。日兵清射。佐宗田兵助。虫  
 若田中野守。小笠原掃部。跡跡大炊。栗原  
 板垣等の人も也。備佐云。熱勢と長蛇又引敵の清利  
 武助。延佐。小令せしむ。又。場英。清守。佐房。小勢  
 されども。今秋勢と成て。旗本は。赤又伎。二のま  
 四良勝。彩と定らる。次ハ大将の旗本也。そ外た右志。り伎。ホ  
 起て十六。赤と。中。小。も。云。秋。勢。の。二。の。ハ。敵。類。小。旗。本。

撃懸んと為町。是と押て。引退。松て。引。行。の。伎。あ。又。後。敵  
 へ。敵。急。又。紅。立。打。崩。え。んと。あ。と。在。合。せ。く。防。我。の。伎。本  
 又。た。馬。介。佐。房。と。あ。く。遠。南。の。山。段。又。伎。下。せ。て。彼。托。軍  
 の。山。縣。以。下。の。常。州。等。只。入。房。又。と。り。赤。の。町。早。く。守  
 旗。と。赤。振。味。方。又。お。圖。と。示。度。く。この。ま。竹。と。定。ら。る。如。く  
 小。懐。尾。張。守。佐。定。と。始。山。縣。二。良。云。清。射。昌。宗。そ。外。九。段。の  
 常。州。各。百。騎。二。百。騎。宛。を。率。し。て。取。中。忍。や。り。小。山。と。越。て  
 ぞ。赤。立。り。又。内。後。修。理。正。昌。等。ハ。耳。利。又。伎。小。荷。張  
 と。進。せ。是。も。夜。乃。小。懐。推。上。背。地。川。の。方。へ。と。ど。ま。り  
 押。込。三。傍。山。と。云。ハ。名。多。く。は。險。阻。あり。峯。嶺。雲。小。連。り  
 崔。嵬。る。山。又。山。峰。の。徑。細。ま。り。小。分。是。そ。上。南。小。高。て

奥州四代二編卷之四

二二



甘繩上編

4

桶尻栗沢といふ沢沼あり。又いふ所のあは深堀といふ堀  
 あり。三の程あり。諸率の進退自中よりする地あり  
 是又依て伝云先小谷孫頼入等と夜中小谷道通  
 千外の我隊十六人の諸軍の境又諸隊とて懸と  
 三増隊と右より見えし。ゆきも小谷勢又交りられざる  
 希。遮らざるるる。疾も切而も示ぬらんとして多聞堂山  
 との懸踏少く逃給侍と見えせり。枝  
 大谷三増隊合戦之事  
 平茲又小谷方お籠り。安房守。左馬頭太夫氏猪。陸奥守  
 氏照等とてお籠りて。丹波の秋父刺を良。千外  
 上田。富永。を山。落井。松山。川越等の士隊お名を得し

524

敵

524

勇士猛率と後。二万侍騎少く三増山は遮。武田勢の侍お籠る  
 と侍居るる。又後よまたる。小田原より遊りける。安房。小谷  
 方お籠りて。大將にて。山南。福徳。多角。山中等の勇士。又  
 千侍騎とてお籠りて。山は屯。而も武田勢の切而も侍と  
 追崩さんと。瀧等と春とて懸る。其又六日の黎明お籠り  
 思ひの外は。武田勢を乱而。山とて懸。余お籠りて。とて  
 小谷氏お籠りて。敵は後。後に於て。後よまたる。流  
 石の伝云も。御汁。盡して。夜中より。山を懸て。逃るる。とて  
 遠よ下知と侍。敵勢お籠りて。今こそお籠りて。追崩しとて  
 伝云とおとれと。言者お籠りて。程よ。常々。小谷勢  
 一月又推助。清利。式部。通が。侍。安二。安二。切て。侍る。侍

日成の記二篇卷之四

敵

上総が倭より早る二騎馳あつて。正しく氏安は、疾く押付  
 よくて。急と告の騎了也。流石は上総は、小条を以て  
 も。世思魚を者といふゆゑ。うづべ氏安が推来しん先  
 又。速者共と追崩る。除べし。控置魚と。おのり  
 向ふ支る。敵共の。一門は。かゝる。事。是。に。氏。界。と。い  
 追崩しんと。方便と。傳く。捕られども。敵も。手。搦。と。あ。る  
 車。二。方。修。務。と。と。修。の。服。は。倭。と。布。道。う。け。味。方。の。勢。は。武  
 田。の。後。波。と。変。局。切。入。る。ふ。も。事。を。た。只。時。受。と。等  
 佐。云。が。嶮。組。よ。つ。ち。と。侍。く。一。卷。は。赤。控。し。と。猛。威。と  
 會。待。希。な。れ。ば。じ。の。佐。云。進。は。危。く。退。は。難。く。良  
 ち。ち。と。告。め。ら。れ。が。先。後。波。は。檢。使。と。い。果。固。は。攻

山南上野守。倭勢は中守。彼は倭守等。二も小舟の  
 武田勢の横合ふ。越り。前走と。搦て。お。破。ら。ん。と。云。ふ。湯。受  
 徳守。四良勝が。勢。是。と。遮。り。日。鉄。炮。と。は。是。う。け。お。合。れ  
 ば。火。蓋。の。方。關。の。勢。山。岳。は。多。て。冷。く。は。河。傍。の。服。は。倭。守。の  
 條方。耳。纒。上。総。が。攻。ま。る。小。田。亦。く。ま。る。と。飛。せ。氏。安。又。亦  
 急。と。告。る。出。し。ぬ。敵。之。勢。降。と。懸。踏。せ。ん。と。倭。と。乱。し  
 り。し。る。死。正。と。引。捕。は。と。後。波。も。受。留。い。東。後。合。と。只。ゆ。ま  
 無。意。は。敵。も。死。せ。り。と。い。ふ。不。定。敵。と。追。崩。し。二。騎。故。と。出。板  
 ち。り。ま。さ。う。落。し。ひ。り。ん。内。旗。本。と。一。討。し。ま。す。押。付。ら。ん。と  
 ぞ。告。り。ら。う。と。佐。云。改。改。ま。る。遠。は。是。と。望。ま。ん。と。今。小。條

武田信玄公傳卷之四

武田信玄公傳卷之四

堪さるせどんば透款又切務事能迄とて。後殿の依利  
がゆあひ。芳根内通外と巻とつれ。て場が依りい様田  
我を防尉岡幸とほしきまゝ。二のよ此四良務が  
依りい。二技劫解由左衛門情形をぞおされなる。かくて  
後も何事とて檢使の場亦よあつた。款とて。利びさ  
依る中りおとと。影と旗本の依と乱し。味方便局されて  
益狼狙の依よぞとせしるる。是とて中条勢。封崩せ  
果とるよひん。陸奥守氏照が依り。早雄の別とて百  
件務湯米立ておておひ。中あも大石をいちとて  
大刻の者。陰とてとて先よを。武田勢と歩崩せ次  
秩父新と良が勢。一千件務とておてか。武田方も山田

たき清尉佐茂。保科強正太。依傍入良。お東市と清等依  
ととて。芳根へとも。旗を停てとて。中条勢。旗お  
とく。勢被退崩せよとて。お東一門小旗と  
を。依云が旗。目けて。大波の寄る。然り来れば  
井利左衛門尉。市川内介。羽井右衛門進等。是とて。透て  
う。中条方也。左衛門を美氏務。安房吉氏邦。井上総今上  
田崎孫兵衛。及永四良左衛門と旗。冥八良よ名氏。得し。別務  
士等。依云と付。け一旗よを。お東とて。用旗振て下あせ  
ハ。勢益勇とほし。かきよ。門と。武田方己は。た  
ぞ。これども。依云。お東。これけん。旗本勢と。お東。守而  
あ。中条方の。糧率一門よ。透よ。お東。と。切入る

山田日記二石屋巻之四

浅利信春打死之軍、其る場内、後継之軍、  
 手差武田方殿の一將、浅利式部連信俊方へ、志常、  
 今夕、若後は、敵と交つる大切の場、  
 たる、方の参じて、一足も引ば、  
 と定よりたれば、雲霞の、  
 其、追立、追ま、味方と、  
 捕瓦、栗沢の、切、た、  
 従率、心と、交死、  
 敵、立、い、  
 う、の、武田、  
 改

山高

若 75

浅利信春、大、  
 勇士の、  
 先、  
 遊易、  
 手、  
 有、  
 又、  
 逐、  
 ぞ、  
 踏、  
 たる、  
 改

群

いよ

327

北条氏忠  
武勇の  
圖



淺利信青

川内力記二巻卷之四

十二



烈陣功記二巻卷之四

十一

烈陣ノ言ニ云ク...

成んんん。高下任云の旗本より。檢使とて来つる。乃根内面... 此の旗本より。高下任云の旗本より。檢使とて来つる。乃根内面...

二月押越て。荒まとい勢つて。我ひたれ。元来小勢の佐房... 二月押越て。荒まとい勢つて。我ひたれ。元来小勢の佐房...







かるる又小条方。若後の大軍量強而武田の旗のよ。良乱とらん  
 ころんらける。越る雨又赤兵士とて向ひる山縣。こらに廣野昌  
 系。これ又續て托軍九隊の副將。合を勢二子。好人。下川の細尾  
 を。下約又成て押出。つるが。漸はてとづれた。別下川の山鼻。保  
 堀のた。故軍の遠た子の後。旗先驅て見せり。これら。山鼻  
 又ゆる武田たる。少佐也。合戦の傍。利是也。と雀躍。而れ馬の  
 守旗と。二振。二振。振と振立る。是とて。大武田。佐去。持  
 たる。軍旗と。言くと。ひま。く。と。下知せ。る。教も。終ら。ざる。に。本  
 改より。急の。ち。鼓。ど。り。く。と。うち。出。山。も。裂。れ。ど。り。り。小。塚。と。吹。揚  
 き。び。い。さ。う。入。雷。気。充。満。る。武田の旗。本。勢。何。く。も。内。へ。移。れ。ば  
 べ。お。や。百。千。の。雷。一。門。小。落。が。如。村。雲。立。と。る。小。条。勢。と。い。ひ。て

小田原

殺入とれば。武田と度。介。佐。実。が。遣。兵。も。一。日。又。切。入。り。中  
 小も。奈。和。安。理。と。介。み。味。子。と。ま。信。飯。尾。跡。江。右。衛。門。小。山。田  
 大。学。城。守。屋。横。田。十。右。衛。門。大。熊。佐。右。衛。門。初。麻。佐。右。衛。門。等。然  
 置。ふ。先。立。て。働。な。れ。ば。じ。り。き。り。ひ。い。小。条。勢。も。送。荒。子。に。追  
 ち。られ。良。あ。り。け。て。ぞ。と。り。ける。加。之。原。堀。の。弓。子。より。吹。合。合  
 たる。具。勢。ど。り。く。と。ひ。き。と。甲。陽。池。一。の。堀。お。山。縣。三。右。衛。門。尉  
 昌。系。と。始。佐。系。田。原。を。な。る。門。耐。佐。信。徳。同。兵。勢。逐。逐。信。頼。子。外  
 中。小。差。系。掃。部。大。夫。共。同。下。落。也。栗。原。板。垣。跡。然。が。度。云  
 雲。の。起。が。如。殺。り。事。り。出。先。小。進。勇。士。也。廣。野。々。等。の。曲。剛。左。衛。門  
 系。石。原。左。衛。門。三。科。把。本。は。跡。を。追。我。勢。下。と。陰。て。入。後。援。無。礙。小。突。立  
 也。山。茶。勢。若。後。の。故。又。な。と。夫。公。崩。が。る。と。て。武。田。の。後。改。可。場。信。利。が

武田の  
勇士  
北条勢  
と破る  
図



川以戦カ巴二

十六



列傳功言二

十六

逃來ると引ひきつり。はらへ合戦の候と云と一ぢれ。氏奉茶  
 齒嚙と為。大音部又怒り罵られざる。所へ。中條左衛門氏忠  
 仰甲も成て馳來り。市旗本の返りり。味方放放  
 小及びぬ。こそは惜しく。其共信云が耳目と稱すれ。債利  
 式勢重信考と。某が信より脱焼と云。お落いひ。平と云。其  
 氏安柳搦候と連。爰も放勢と集。小田原へ引ひきつり。

又武田方又於へ。信云思ふ。信云思ふ。信云思ふ。信云思ふ。

揚具と云。徳軍と云。懸くして。三増席と云。越。け。雨。

小荷張手。内。成。皆。地。川。の。山。王。の。際。と。

所へ。小。橋。尾。張。守。信。定。築。井。の。城。の。押。と。解。馳。着。て。

と。祝。ぎ。る。ま。よ。り。信。云。及。島。と。云。

倭も守かへ。令限は血戦とれば。小条方。遂は放放と成て

味と云。下。に。信。士。系。へ。と。逃。も。也。中。津。川。狭。所。と。

成。り。る。小。条。龍。歩。立。と。成。ら。し。も。在。切。岸。と。

也。後。考。へ。ま。離。ま。へ。良。堂。と。

決。然。と。當。て。引。退。て。道。に。と。甲。及。勢。追。信。と。

落。し。か。捕。る。名。義。本。と。乱。と。

又。奮。英。名。氏。世。と。知。ま。る。小。条。方。の。

け。一。拳。又。打。挫。が。れ。て。散。り。と。成。り。逃。り。

取。勢。也。高。下。小。田。原。又。

總。成。り。信。と。云。ま。よ。り。二。千。餘。騎。と。

る。秋。野。と。馳。來。り。と。け。味。方。の。

盛

た

と

康

波







小幡上谷信定築井城ヲ押上

北条方  
内藤大和守  
篁元

築井城

知二風一町

小幡上谷

甲刃道

栗原  
小笠原掃部  
真田共  
真田源左衛門  
菅原守  
菅原守

原集人  
原集人

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

武田信重  
武田信重  
旗本  
白倉

相模川

相模川

桶尻

北条  
甘俣上総介

吉岡研次

岩槻

佐倉堂

北条左門氏

遠山

北条女房中氏邦

葛城城

深谷衆

成田下野守

北条左門氏志

原式部

川越堂

北条陸奥守氏照

松山衆

高野山

山

武名まら 諸君も雷動に 程又記戦場の度園  
 是より而山条家も武田小故とて子の種と知て 妨成  
 おまた 又今川赤の勇士も畏振して 駿只一國自然伝云  
 の有と成又まきり 嗚呼軍旅陣法の盛るる 伝云と冠と  
 あり 臣下も亦る場内及の英雄也 傳又智仁雷と兼体と  
 柳伝房は戦場又於内及冒者より古宗とん 駿とる 徳と車牛  
 離牛と解つるより 伝又新古今集又物言 昔 徳大寺のた  
 大臣未大納云ておへし くら付小侍後とて 女の時久通  
 とせぬひけるよ 一夜宵の程あり 若女も 大納云どの 遠く  
 へ甘ひたれば 子付け女侍とて 障り事あり

中より小更りては 初まきけのあな列の 目くらみのうら  
 秋 飾るる 名もよりにて 子と女と 侍宵の 侍後とる 侍を 甘  
 い 糸の心い 我あふ人の 来るやと 宵の ほどより 結の なる 小  
 人の 束らで 夜に 寝てと 添く なる 交ると 昔 侍の 勢と 獨  
 徒 幾と 打ち けし 何のお 憂へ 限りも なく 侍と なる 侍  
 只ふ人と 侍 臥て 終夜 寝て けし けし 早くも 寝おさる 侍  
 との 侍と 侍の 勢と けし けし 何のお 憂へ 侍と なる 侍  
 彼侍 なる 侍と けし けし 侍と なる 侍と なる 侍と なる 侍と  
 列又 勢の 来る 侍と けし けし 侍と なる 侍と なる 侍と  
 て 侍と なる 侍と けし けし 侍と なる 侍と なる 侍と なる 侍と  
 が 憂え 又 きたる 侍と けし けし 侍と なる 侍と なる 侍と なる 侍と

あつる軍中での密務也。けしむ中条勢小受留られ。佐  
房未死と防我ふこと。先は托軍して。下は山と遠る  
山線及れ隊の隊。故の後又迫り来るを待也。故に  
山線等より来る要と云也。又け款と追崩白退んと云  
若後より競うれば容易に崩れ。け款は難と憂と  
つらりと内へ知せしる五子より。始内後より。後段の  
軍列とて。る傍が安否と案也。先は山線等が勢の  
死生と云ふ劇戦の中。風流とん。安否と傍言する事  
臨機应变の要也。智といひ勇といひ往昔の名もよく

急 康 中

あつる英雄哉とて。故味方とも是と感稱。而も予頂の  
兵は。又け合戦は終。中条家の破。推し  
常智少。謀意乏は。是只佐云が神策小勢怖し  
氏安手。款一難と知戦と好じて。戦日の能城は。安手  
淨座せし。退と撃事。復は援兵と結。按て是と破んと  
而し圖は。自勇威。事退く。而し圖は。却  
大敵は及べり。麾下は。説持。獲率。終る。終る。終る  
と。佐云の攻と。馳。亦。是と破と  
也。曩の川中流の役。上は。武田の陣と  
陣。小条方の武。中。是と評。是  
氏安も。己。八。程の大。管



領上牧憲政と追安房の里見と壓千外雨の抄紙と順小  
寡と以衆と討堅と確強と破智常孫畧依達する事。實に  
古今の名なり。唯武田之兵と締ま玉むる屢おられ。然中  
外。居城は素法られ。曲外と蹄よりけられ。城街と放火され  
事。氏安一代の事と聞え

康

政

郭

結



開

あり  
一

繪本烈戦功記後編卷之四畢

